

「ビジターセンター×京大×未来知プロジェクト」

石原正恵¹・太田果南²

¹京都大学フィールド科学教育研究センター、²京都大学農学研究科修士2回

目的

京都丹波高原国定公園は京都府の北東部に位置する。

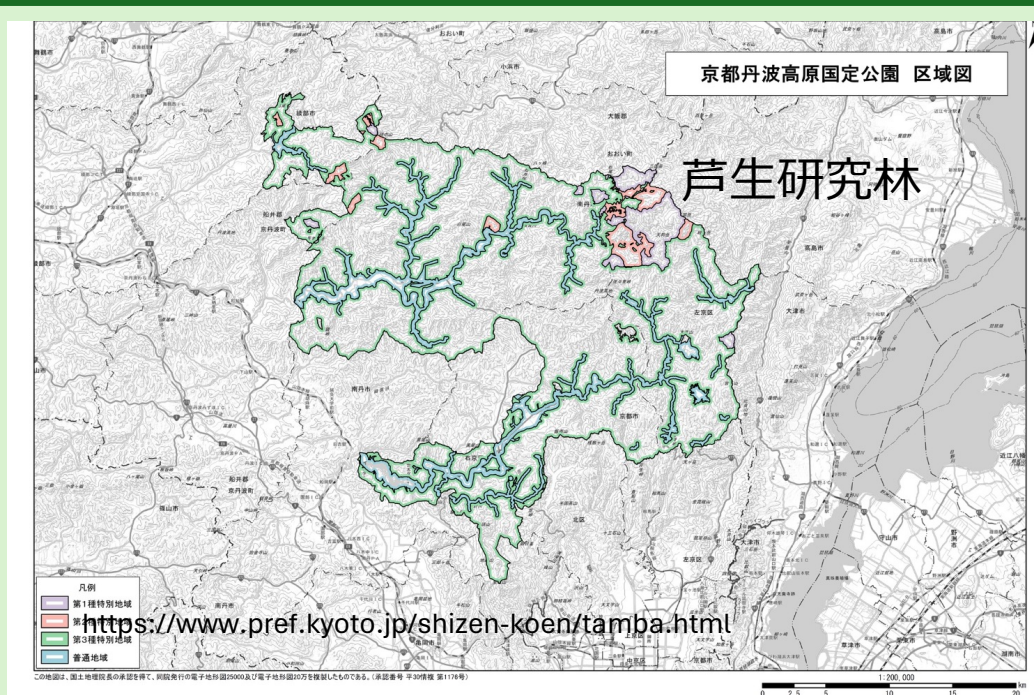
ビジターセンターは、国定公園の優れた風景地の保護とその利用の増進を図り、地域の発展に寄与するための業務を実施している。

芦生研究林は国定公園の中でも特に自然を保護するエリアとなっている。また「森里海連環学」を提唱し、森と人とのつながりの再構築による豊かな森と持続的な人間社会の創出を目指している。

京大フィールド科学教育研究センターは、2022年に京都丹波高原国定公園ビジターセンター運営協議会と包括連携協定を締結し、共同して事業を展開してきた。

ビジターセンターにおける、

1. 自然環境や文化に関するデータ収集
 2. 展示や学習会のためのコンテンツ開発
 3. 来館者数の増加や売上の向上につながる取り組み
- を共同で実施する。



国定公園内の野生動物に関するデータ収集

国際生物多様性プロジェクトLIFEPLAN

修士研究を通じて



ハクビシンが多雪地の奥山で生息・子育てをしていることを発見！
(太田果南・石原正恵 投稿準備中)

分布拡大・野生動物を含む生態系への影響が危惧

京大実習「森里海連環学III」 2024年2月20～22日実施



13名の1・2回生が履修

芦生研究林内で植物・動物・菌類を学ぶ

原生的な森と温暖化影響生物多様性



美山町のかやぶきの里を見学

人と自然の調和のある暮らしを学ぶ



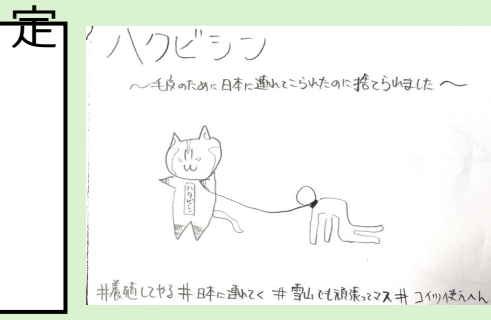
ビジターセンターの課題を学ぶ



ハクビシン、タヌキ、シカをテーマに伝えたいこと、デザイン、ポップを考える

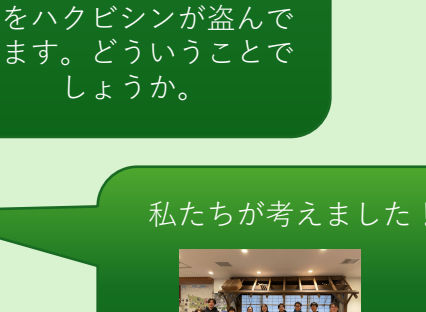
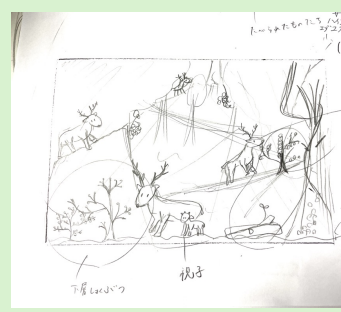
芦生の森の生き物をモチーフにしたポストカード開発

2024年2月開発中。2024年度に販売実験実施予定



若者らしいセンスがうかがえる

京大生らしい、謎を問いつけるデザインとポップ



シカの食害のない豊かな森

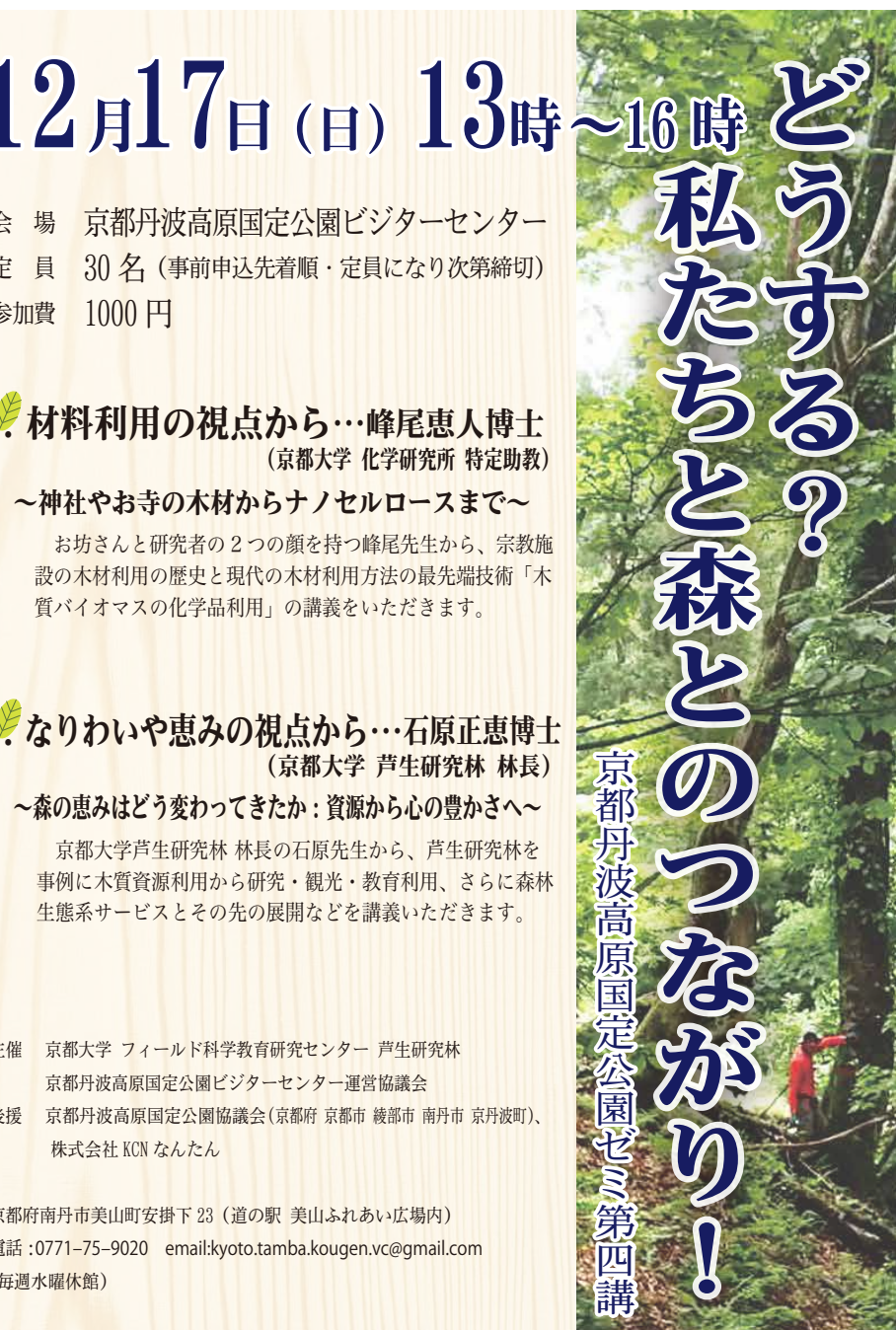
身近だけど知らないタヌキの暮らしのため葉から植物が成長している

私たちが考えました！

展示パネルの制作



講演会の開催



研究者・地域がつながるプラットフォーム



その他、当該地域における自然科学と人文社会学の両面の研究成果データベースのアップデートも実施予定

謝辞：本プロジェクトは学生とともにのぼす京都プロジェクトの助成をうけて実施しました。また多くの地域関係者の皆様にご協力いただきました。